

外務省警察（領事館警察ともいう）は、日本帝国主義の植民地政策の中で、「大東亜治安体制圏」の担い手として、不平等条約にもとづく領事裁判権を盾に、「領事警察権」の行使を既成事実化し、大陸進出・侵略の先兵的役割をもっていた。この朝鮮民族独立運動の取締り、中国民衆の抗日運動の監視など特高警察的機構をもった外務省警察の活動記録は、昭和19年（一九四四年）にタイプ刷りで『外務省警察史』として、一応完成した（一部未定稿を含む）。本復刻は、その全体を原本のまま復刻し、日本現近代史の基本資料として公刊する。

不二出版

外務省警察史

全53巻

別冊1

○復刻版概要——A4判・上製クロス装・四面付方式・総頁数18、500頁

○原本提供——外務省外交史料館 ○配本——全18回配本（96年6月～01年12月）

○別冊——解説（荻野富士夫）／総目次・索引

○価格——各配本每 本体価格699,000円・全巻揃本体価格1,242,000円

日本の旧植民地（朝鮮・中国など）の治安体制の実相を示す基本資料の復刻！

侵略の裏面史を読む

海野福寿

また、史料の宝庫の扉がひとつ開く。原本で七万四〇〇〇ページにも上る外務省編さん『外務省警察史』が復刻されることになった。

それが外務省外交史料館に所蔵されていることは知られていたが、分量があまりに多いのと内容の検索手段が整っていなかったため、一般研究者は手をつけかねていたのである。

外務省警察とは、なじみが薄い、不平等条約下の朝鮮・韓国、中国などに駐在の日本領事が、居留民の保護・取締り、利権の保護を名目として、侵略先で独自の警察権を行使した領事館警察のことである。

始まりは一八八〇年の釜山領事館警察であるが、日本人の朝鮮進出とともに肥大化し、韓国の司法権を蚕食した。ついで中国要地の領事館にも設けられ、治安保持、現地のトラブル弾圧、抗日運動の情報収集など特高活動を積極的に行った。いわば侵略の道先導した清掃人である。

それなるがゆえに、外務省は一九三七年から八年の歳月をかけ、顕彰的意義をこめて『外務省警察史』の編さんを行なったのである。その際、外務省所蔵文書はもとより、在外公館に求めた報告資料などが本書に収録され、膨大な史料集となった。現在では直接利用することができない文書も少なからず収められている。

私たちは、本書を手にするることによって、朝鮮、中国への侵略の裏側をまざまざと見る機会をうることになった。

(明治大学教授)

緒言

過去三十餘年間に在留邦人保護ノ爲、共匪馬賊ノ檢舉討伐ハ勿論、殆ント軍人ト同様幾多ノ事變ニ敢然銃砲ヲ執リテ立テ、國策ノ第一線ニ輝カシキ功績ヲ重ネテ來タ我在滿外務省警察官ハ、滿洲國ニ於ケル治外法權ノ全面的撤廢ニ伴ヒ、昭和十二年十二月一日ヲ以テ、一齊ニ滿洲國ニ移讓セララルコトトナツタノデ、本省並在滿大使館關係諸官及支那在勤ノ領警職友ハ、日滿兩國ノ楔トシテ勇躍轉官セララル諸君ニ對スル儀トシ、又此劃期的ノ史實ヲ永久ニ記念スル爲、此寫眞帖ヲ編纂シテ次第デアアル。

然ルニ意外ニモ七月七日盧溝橋事件突發シ、遂ニ八月末ニハ在支各總領事館、領事館ハ上海天津ヲ除キ、全部引揚クルノ已ムナキマデニ事態ハ重大化シテシマツタノデ、支那在勤者ノ寫眞ハ期セズシテ大體天津、北京、上海ニ集結セラレタ結果トナリ之亦好個ノ記念トナツタノデアアル。

昭和十二年十一月三十日

外務大臣官房人事課長
外務書記官 松本俊一

歴史のひだに隠されていた 領事館警察の全貌

木坂順一郎

今回復刻されることになった『外務省警察史』は、明治初期以来日本が韓国や中国の各地に開設していた外務省警察（領事館警察）の歴史を知るうえできわめて貴重な史料である。韓国については一八七二（明治五）年から一九三七（昭和一二）年までの、中国東北部（満州）については一八七六年から一九三八年までの、中国については一八七〇年から一九四〇年までの各領事館警察の歴史がくわしく叙述されている。原本は約七万四〇〇〇ページにもなる膨大なものであり、また写真帖には当時の雰囲気や伝えるめずらしい写真がたくさん収められている。

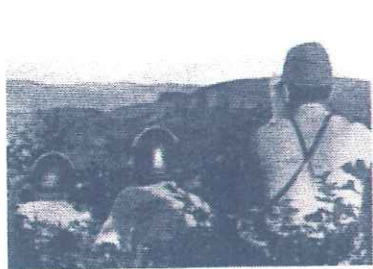
もともと領事館警察の任務は、いわゆる「居留民の保護と取締り」が中心であるが、その他に当該国の当時の政治・経済の現状や現地民衆の生活・風俗などに関する情報の収集、さらには抗日民族運動に対する内偵と情報の収集などが含まれていた。したがって私たちは、本書によって領事館警察の実態と活動内容の記録だけでなく、領事館警察の目を通して見た当時の現地在留日本人の状況や当該国の各分野における実情と動向の一端を知ることができる。いいかえれば、長年にわたって歴史のひだに隠されていた事実を知り、それらの事実がもつ歴史的意味を考察することができるであろう。

近代日本による韓国・朝鮮や中国への勢力圏拡大に関する歴史研究は、一九八〇年代以降急速な進歩をとげ、すぐれた研究成果があいついで発表されてきている。そのためこれらの地域に対する日本の支配の実態は、かなり明らかにされてきたが、その支配の日常的な実態については、かならずしもその全貌が明らかにされたとはいえない。

本書の復刻によって、近代日本による韓国・朝鮮、中国に対する勢力圏の拡大とその支配の構造およびその末端における支配の実態の歴史的究明がさらにすすむことを期待したい。

(龍谷大学教授)

軍分滿分署管内各地方兵匪討伐に際しては、於ては、據占窟ル



八滿分署兵員、匪共討伐、状況



八滿分署管内各地方兵匪討伐に際しては、於ては、據占窟ル



依ては、功に、紀念品授受紀念、依ては、功に、紀念品授受紀念



軍分滿分署兵員、匪共討伐に際しては、於ては、據占窟ル

『外務省警察史』の復刻に寄せて

副島昭一

私が外務省警察に関心を持ったのは、一九三一年中国東北の長春郊外で発生した万宝山事件の際、日本の領事館警察が朝鮮人の水路工事を保護するために出動したことを知ったときである。この事件そのものは九・一八事変（「満洲事変」）について論及される際、その前史として必ず触れられているが、その領事館警察がなぜ、どのような経緯で存在するようになったのか、どんな任務を持っていたのかについては説明されることはなく、よく分からないまま気がかりになっていた。

その後、この『外務省警察史』の存在を知り、その起源、組織、沿革をまとめてみようと考え、小論「朝鮮における領事館警察」、「中国における領事館警察」を執筆した。私が見たのは外交史料館所蔵の原本ではなく、米内閣務省と議会議事録の作成に係るマイクロフィルムであった。その際私が直接利用したのはこの警察機構そのものに関する文書であったが、この『外務省警察史』には、それだけでなく領事館管轄区域内の動静、とくに日本帝国主義に抵抗する運動などに関して上級機関に報告した情報も多く収められている。領事館警察は情報蒐集機関の役割も持っていたのである。また警察官の制服、所持品なども図入りで示されるとともに、給与や勤務条件なども記載され、警察活動の具体的なイメージを得る上でも便利である。

今回この『外務省警察史』が復刻されることになり、外交史料館に赴いたりマイクロフィルムで見るとも、ずっと利用しやすくなった。本書が日本帝国主義の朝鮮・中国における活動の一環をより明らかにし、他方朝鮮・中国の側の状況を把握する上でも、有力な史料となることが期待される。

(和歌山大学教授)

『外務省警察史』発刊に寄せて

荻野富士夫

治安維持法を筆頭とする治安法令は、戦前日本の植民地朝鮮・台湾・樺太において、また租借地である関東州においても適用され、それらを運用する警察・司法機構は国内の治安体制と結びついていた。さらに中国・「満洲国」のなかでも日本の治安法令が適用され、警察・司法機構が存在した（「満洲国」においては治外法権が撤廃される一九三七年一月まで）。戦前の治安体制は、日本国内・植民地にとどまらず中国・「満洲国」の治安維持とも連動し、「(大)東亜治安体制圏」とでもいうべき構造と機能を有していたのである。

植民地ではそれぞれの統治体制のなかに警察・司法機構が組み込まれるが、中国・「満洲国」においては、外務省警察（領事館警察）こそが「(大)東亜治安体制圏」の担い手であった。外務省警察は、不平等条約にもとづく領事裁判権を根拠に「領事警察権」の行使を既成事実化し、進出・侵略の先兵的役割を果たした。在留日本人の保護取締と権益保護という領事館活動の一部として創出された外務省警察は、主に一九二〇年代以降、コミンテルンと往来する社会主義者や上海などを拠点とする朝鮮民族独立運動の取締、さらに中国民衆の排日・抗日運動の監視という特高警察的機能を強めるなかで、次第に組織を増殖し、日中戦争全面化以降は「後方治安ノ確保」のため、「領事警察権」の枠をも逸脱して抗日運動を直接取締り、中国共産党を弾圧した。なお、外務省警察の嚆矢が一八八〇年の朝鮮釜山領事館への設置にあり、一九〇六年の統監府・理事庁警察への移行まで朝鮮を「保護国」化する地ならしの役割を果たしたことは、この特異な警察の一九四五年までの軌跡を予兆させるに足る。

「在満外務省警察」の「満洲国」移譲を機に計画された『外務省警察史』は、元外務省警視末松吉次が編纂の中心となり、当初一九三七年一月までが編纂対象であったが、編纂作業が長期におよぶ過程で中国関内については四〇年未

不逞鮮人逮捕ニ對シ懸賞金ヲ附スルノ件
奉天省内殊ニ鴨江沿岸西間島一帯ニ蟻集スル不逞者ニ對シ支那官憲ノ名ヲ以テ懸賞逮捕ヲ爲サシム
首領者ト目スベキ者等ヲ特種トシテ以下甲、乙、丙ノ四種ニ分チ各々別表ノ等級ニ據リ逮捕者及之ニ準ズベキ支那人ニ懸賞金ヲ與フ
「懸賞逮捕實行費金二萬圓也」
等級別計算表

種別	人員	懸賞金(円)	對スル賞金(円)
特	1人	10000	10000
甲	20人	20000	20000
乙	50人	50000	50000
丙	100人	100000	100000
計	170人	170000	170000

種別	人員	懸賞金(円)	對スル賞金(円)
特	1人	10000	10000
甲	20人	20000	20000
乙	50人	50000	50000
丙	100人	100000	100000
計	170人	170000	170000

までを範囲とすることになり、四四年一〇月、タイプ刷りで正本一四冊・副本一〇〇冊として完成した。

すでにマイクロ・フィルム版などにより利用されてきたが、今回の刊行により「(大)東亜治安体制圏」の一翼を担った外務省警察の自画像が浮き上がる。大部な本資料に加え、編纂の原資料となった「外務省記録」や各領事館警察署、主管局であった東亜局などが作成した文書類を精査することで、外務省警察の全貌の把握が可能となる。外務省警察の本質はその特高警察的機能を發揮した治安維持にあるが、編纂者が自負するように「当該国当時ノ政情、民情、風俗、経済、其ノ他社会相一般ノ変遷沿革ニ関スル史蹟」(四三年以降編纂に加わった元外務事務官相場清の外務省人事課長宛報告へ一九四四年四月)も盛り込まれており、「(大)東亜治安体制圏」の裏返ししたる「東亜新秩序」ないし「大東亜共栄圏」の実相もうかがうことができる。

(小樽商科大学教授)

外務省警察史
満洲保民會
不逞鮮人取締及保民會援助爲
調査班ノ派遣

『外務省警察史』収録内容一覽

分類番号は、外交史料館の分類による。

分類番号	収録年	史料件名	原本冊数	複製版冊数
1 元韓国ノ部				
1-1	M 9 ~ M 38	条約及同関係法令	1	1
1-2	M 13 ~ M 38	警察官ノ官等、任用、給与及旅費	1	1
1-3	M 13 ~ M 25	警察官ノ服務、札式、服制、休暇、賞与	1	1
1-4	M 5 ~ M 39	公使、領事館ノ歴史、管轄区域及在留邦人ノ戸口	1	1
1-5	M 10 ~ M 38	警察官ノ配置、勤務、在留民ノ保護取締	1	1
1-6	M 18 ~ M 38	警察官ノ配置、勤務、在留民ノ保護取締附録	1	1
1-7	M 19 ~ M 38	外国語学修、警察予算、警察署ノ火災、消防組、新聞紙、在留禁止、居留地警察、軍事警察	1	1
1-8	M 37 ~ M 40	警察顧問	1	1
1-9	M 12 ~ M 32	日本側施設病院	1	1
1-10	M 12 ~ M 38	領事館令	1	1
1-11	M 15 ~ M 39	附属写真帖	1	1
2 警察関係条約及諸法規類 (満州及支那) 等				
2-1	M 6 ~ S 7	警察関係条約及同関係法規	1	1
2-2	M 33 ~ S 12	領事館管轄区域	1	1
2-3	M 10 ~ S 12	司法及在留民ノ保護取締	1	1
2-4	M 25 ~ T 9	警察官ノ任用及支給、警察官ノ官等給与旅費	1	1
2-5	M 17 ~ S 5	警察官ノ配置、応援、總領事館、領事館ト分館トノ執務統制、警察予算、警察機関ノ改善	1	1
2-6	M 15 ~ S 8	警察官ノ服務、勤務、札式、考查、警察点検、警察操典、警察講習所入所、警察巡閱	1	1
2-7	T 2 ~ S 12	服制、休暇、精勤証書、功勞記章、警察賞与、靖国神社合祀、殉職警察官遺族弔問、警察官特別慰勞、共済会、警察歌	1	1
2-8	S 12	外務省警察史ノ編纂	1	1
2-9	S 15	附属写真帖 (警華帖)	1	1
3 満州ノ部				
3-1	M 9 ~ M 41	在南満州領事館 自明治九年至同四十一年	1	1
3-2	M 39 ~ S 12	関東都府府 (関東庁、関東局) 官制及同警察官ノ外務省兼任並ニ配置	1	1
3-3	T 9 ~ T 12	満州保民会、不逞鮮人取締及保民会援助ノ為調査班ノ派遣	1	1
3-4	S 7 ~ S 12	在滿大使館	3	1
3-5	T 15 ~ S 2	在帽兒山分館	1	1
3-6	T 4 ~ S 13	在海龍分館	1	1
3-7	T 4 ~ S 13	在通化分館	1	1
3-8	M 43 ~ S 11	在撫鹿分館	1	1
3-9	T 4 ~ S 7	在農安分館	1	1
3-10	M 41 ~ S 8	在鄭家屯領事館	1	1
3-11	T 5 ~ S 8	在赤峯及承德領事館	1	1
3-12	M 39 ~ S 12	在吉林總領事館及敦化分館	2	1
3-13	M 35 ~ S 12	在哈爾濱總領事館、同牡丹江及佳木斯分館、在綏芬河領事館、在新京總領事館扶餘分館	3	1
3-14	M 40 ~ S 12	在齊齊哈爾總領事館、黑河及白城子分館	1	1
3-15	M 42 ~ S 12	在滿州里及在海拉爾領事館	1	1
3-16	M 16	附表其ノ一 (警察官配置累年別表外七表)	1	1
3-17	M 17	附表其ノ二 (警察賞与累年別表外七表)	1	1
3-18	M 18	附表其ノ三 (在留禁止、論旨退去及保護送還累年別表外九表)	1	1
4 間島ノ部				
4-1	M 43 ~ T 7	間島ノ來歴、 間島琿春地方ニ於ケル外務省ノ沿革 ①創設、間島協約ト大正四年日支條約トノ關係ニ関スル係争問題ノ経緯、滿蒙ニ関スル日支條約ヲ間島朝鮮人ニ適用問題ニ関シ警察官ノ増員	1	1
5 支那ノ部				
5-1	S 11 ~ S 15	在支大使館北支警務部	1	1
5-2	S 11 ~ S 13	在天津總領事館警察部	1	1
5-3	M 33 ~ S 12	在北京公使館附属警察官	2	1
5-4	T 9 ~ S 15	在張家口總領事館	1	1
5-5	S 11 ~ S 15	在張家口總領事館大同出張所	1	1
5-6	S 11 ~ S 15	在厚和總領事館	1	1
5-7	S 13 ~ S 15	在石門總領事館	1	1
5-8	S 11 ~ S 15	在太原總領事館	1	1
5-9	M 8 ~ S 15	在天津總領事館	3	1
5-10	S 3 ~ S 15	在天津總領事館塘沽出張所	1	1
5-11	S 8 ~ S 15	在天津總領事館唐山分館	1	1
5-12	M 38 ~ S 15	在山海關領事館	2	1
5-13	M 15 ~ S 15	在芝罘領事館	1	1
5-14	T 11 ~ S 15	在青島總領事館及同坊子出張所	2	1
5-15	T 1 ~ S 15	在濟南總領事館及同博山、張店出張所	2	1
5-16	S 14 ~ S 15	在徐州領事館	1	1
6 支那ノ部				
6-1	S 14 ~ S 15	在支大使館中支警務部	1	1
6-2	S 14 ~ S 15	在上海總領事館	2	1
6-3	M 3 ~ S 15	在上海總領事館、朝鮮民族運動 (未定稿)	5	1
6-4	M 43 ~ S 12	在上海總領事館共産、無政府主義運動 (未定稿)	1	1
6-5	T 10 ~ S 8	在蘇州領事館	1	1
6-6	M 29 ~ S 15	在杭州領事館	1	1
6-7	M 29 ~ S 15	在南京總領事館	1	1
6-8	M 34 ~ S 15	在蕪湖領事館	1	1
6-9	T 9 ~ S 13	在九江領事館	1	1
6-10	M 40 ~ S 15	在漢口總領事館、在鄭州領事館	1	1
6-11	M 18 ~ S 15	在長沙領事館 (未定稿)	1	1
6-12	M 29 ~ S 12	在宜昌領事館 (未定稿)	1	1
6-13	T 7 ~ S 12	在沙市領事館 (未定稿)	1	1
6-14	M 29 ~ S 12	在重慶領事館 (未定稿)	1	1
6-15	M 40 ~ S 9	在成都領事館 (未定稿)	1	1
7 支那ノ部				
7-1	M 7 ~ S 13	在廈門總領事館	1	1
7-2	M 5 ~ S 11	在福州總領事館	1	1
7-3	M 37 ~ S 15	在汕頭領事館	1	1
7-4	M 21 ~ S 15	在廣東總領事館	1	1
7-5	S 14 ~ S 15	在海口總領事館	1	1
7-6	M 44 ~ S 12	在雲南領事館 (未定稿)	5	1
7-7	S 12	附属写真帖 (北、中、南支の分)	1	1

外務省警察史

全53巻・別冊1

○復刻版概要——A4判・上製クロス装・四面付方式

総頁数18、500頁

○原本提供——外務省外交史料館

○配本——全18回配本（各配本ごとの分売可）
 ○別冊——解説（荻野富士夫）／総目次・索引
 ○価格——各配本每 本体価格69、000円

◎配本予定一覧

配本	収録巻数	収録内容	配本年月（西暦）
第1回配本	第1巻～第3巻	元韓国ノ部	96年6月
第2回配本	第4巻～第6巻	警察関係条約及諸法規類等	96年9月
第3回配本	第7巻～第9巻	満州ノ部①	96年12月
第4回配本	第10巻～第12巻	満州ノ部②	97年6月
第5回配本	第13巻～第15巻	満州ノ部③	97年9月
第6回配本	第16巻～第18巻	満州ノ部④	97年12月
第7回配本	第19巻～第21巻	間島ノ部①	98年6月
第8回配本	第22巻～第24巻	間島ノ部②	98年9月
第9回配本	第25巻～第27巻	間島ノ部③	98年12月
第10回配本	第28巻～第30巻	支那ノ部（北支）①	99年6月
第11回配本	第31巻～第33巻	支那ノ部（北支）②	99年9月
第12回配本	第34巻～第36巻	支那ノ部（北支）③	99年12月
第13回配本	第37巻～第39巻	支那ノ部（北支）④	00年6月
第14回配本	第40巻～第42巻	支那ノ部（北支・中支）⑤	00年9月
第15回配本	第43巻～第45巻	支那ノ部（中支）⑥	00年12月
第16回配本	第46巻～第48巻	支那ノ部（中支）⑦	01年6月
第17回配本	第49巻～第51巻	支那ノ部（中支・南支）⑧	01年9月
第18回配本	第52巻～第53巻十別冊	支那ノ部（南支）⑨	01年12月

各配本每 本体価格 69,000円

【各年度ごと207,000円・全巻揃価格1,242,000円】

本カタログ中の表示価格は、全て消費税を含んでおりません。

不二出版

〒113 東京都文京区向丘一丁目二二番
 TEL 03-3812-4433
 FAX 03-3812-4464
 振替 001601194084

※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。